光村　六年　　二〇十二年七月五日（木）三校時

詩　生きる　　谷川　俊太郎

（八王子市は、教出の教科書を使用している。）

二時間扱いの二時間目

第二次指導

○　おはようございます。
　　おはようございます。
○　昨日、よく頑張ってくれたなあと、思います。帰ってから、ここ、読んでみた人は、手を挙げてください。
　　（多数挙手）
○　手を挙げなかった人は、いいんだよ、一生懸命聞けばいいんだから。手を挙げた人の中で、全部覚えちゃったという人。見ないで言えるという人。
　　……。
○　あっ、途中までだったらだいたいできる。一連分くらい覚えた人。（多数）
○　二連まで行った人。（半数）
○　あっ、三連ぐらいまで大丈夫な人。（三割）
○　あっ、四連までっていう人。（一、二名）
　　無理無理。
○　この授業が終わった時に、五連までできるといいなあと思います。

一　よむ　五名（連一名ずつ　音読）

○　さあ、それでは、読んでもらいます。今日、一番は、誰。（確認後）二番、三番、四番、五番、黒板の一人目、二人目、三人目ね。じゃあ聞く人。両手で本じゃなくて、紙を持ちなさい。そうしたら、腰を立てる。そうするとね、意識が集中できる。
○　じゃあね。大きな声で、ゆっくり読んでやって、お願いします。

1連　ああ、よかったよ。丁寧に読んでくれた。
2連　ああいいねえ。素晴らしい。
3連　あっ、見ないで暗唱でやった。偉いね。
4連　ああ、いいねえ。
5連　ああ。素晴らしい。よかったよ。

○　じゃあ、置いてください。読んでいるときにみんなの集中が出てきたからね、教室に静寂が生まれた。集中すると、読んでいる声とあの音（扇風機）しか聞こえなかった。昨日の七人の人も、一生懸命読んでくれました。今日の五人の人もよかった。暗唱でやろうなんて、気合がいいね、大好き。
　　えっ。

四分三〇秒経過

二　とく（本時の足場を作る話し合い）

〈おさらい〉（前時の復習をする）

○　昨日の復習をします。ちょっと書きますから、待っていてね。三連、四連、二連、一連、そして五連（3、4、2、1、5と板書）
○　昨日、4連。そうだって、気が付いたことあったでしょう。普段、気が付かないことで「はっ。」と思ったこと何だったけ。
　　いまが過ぎてゆくこと。
○　あっ、いまが過ぎてゆくということ。（過板書）これ、私たち普段意識していないけれども、これすごいこと。君達、そんなことないんでしょうけど、私は、この4連の「いまが過ぎてゆくということ。」を読んで、あるイメージが浮かんでくる。私の歳になると、そういうことがある。どういうことかというと、君達、知っているかな、桐の箱でこう大きい箱があるのを。
　　棺桶。
○　あっ、棺桶。そう、棺桶。私だとね、目に浮かぶの。君達は、そういうことないでしょう。
　　ない。
○　それでいいの、それで。この歳になるとね。そうすると、どう生きたいと思う。
　　……。
○　さあ、「いまが過ぎてゆく。」ことを、普通は、何という。
　　時間が…。
○　時間が過ぎてゆく。そうすると、4連は、時間を観察したと考える。（時間　板書）いいねえ。時間が過ぎてゆくことを考えました。今という一瞬で、谷川さんの頭にイメージとして出てきたものが、五個あったんだね。同時に起こったことが五つあったんだね。最初は、なんだったっけ。
　　遠くで犬が…。
○　遠くで犬が、（犬　板書）ほえるということ。次は。
　　地球が回っているということ。
○　地球が回っているんだよ。（地球　板書）自分達が回っているということ。今も地球には、意識はないけど、地球は回っている。次は。
　　産声があがる。

○　今、どこかで産声が上がるということ。（産声　板書）これは、家族にとっては、どういうこと。
嬉しいこと。
○　嬉しいこと。喜びですね。それと同時に起こっていること。
兵士が傷つくこと。
○　兵士が、どこかで兵士が傷つくということ。（兵―　板書）私たちにとっては。
悲しいこと。
○　悲しいことね。そういう風に並べてある。そして、もう一つが。
ぶらんこが揺れている。
○　ぶらんこがゆれているということ。（ぶ―　板書）これ、こっち、みんな漢字、あるね。この行だけ平仮名なの。おまけに、ぶらんこが使ってある。この「ぶらんこ」って言葉は、ここにうまい具合に使ってあるの。ぶらんこのイメージが、何と重なるの。ぶらんこが、こう揺れてるなあ…。揺れているものと時間で何が…。
時計。
○　時計の何だ。
振り子。
○　振り子。素晴らしい。そのイメージが重なるように作ってある。すごいね。だから、詩人って、すごいものなんだなあと、感心しました。そういう風に考えると、面白いでしょう。動きが出てくる。いいね。
○　じゃあ、次。二連だよ。二連は、どう生きたいと考えたの。生きているとどういうことがあるの。
美しいものに出会うということ。
○　美しいものに出会うということ。（美　板書）美しいものは、これは、美しいだけでなく食べ物だったら何という。
おいしいもの。
○　おいしいものに出会うということです。（出会　板書）素晴らしいという意味だよ。価値があるという意味。あるいは、輝いているといってもよい。
○　もう一つ。
かくされた悪を…。
○　悪を注意深くこばむこと。（悪　注意深　板書）注意深く拒むってのは、簡単だろうか、難しいだろうか。
難しい。
○　難しい理由が、二つあるのね。この悪は、見えるの見えないの。
見えない。
○　見えない。こっちの輝きが美しければ美しいほど見えなくなる。今年、君達も見た。
金環日食。
○　あっ、日食。見たでしょう。この辺りじゃあよく見えなかったけど、日食になると見えなかったものが見えてくる。
コロナ。
○　コロナも見えるけれども、太陽が見えなくなってくると、見えるものがあるの。
月。
○　月は、見えないんだね。月は、隠す方だものね。星が、星が見えてくる。太陽が輝けば輝くほど、星は。
見えなくなる。
○　見えなくなる。そういうことなのです。だから、こう（注意深）じゃなければならない。そういうことに気が付いた。
○　さあ、悪は、美しいものに隠れている。美しいものの例が五つ上げてあったね。何だったっけ。
ミニスカート。
○　ミニスカート（ミ　板書）。ミニスカート、美しくないと思っているかもしれないけど、美しいんだよ。私も、この詩ができた頃、私が若かった頃、彼女、今の奥さんとデートすると、奥さんもこのミニスカートをはいていた。ちょうど、流行っていた。プラネタリウムも流行っていたの。デートにプラネタリウムを観に行きました。そういう時代。いいね。
○　ミニスカートにも、悪が隠されている。何ですか。
痴漢。
○　あっ、痴漢もそうだな。それは、女の人、気を付けなければならない。他には。ミニスカートは、ミニスカートだけじゃあなくて、何かの代表だよ。ファッションの代表と考えると、流行のファッションだけ、いいなあと思って、それだけ買ったら、それは、悪があるでしょう。どんな悪が。
お金を使ってしまう。
○　お金だけ使うじゃあなくて、何を失うんだよ、お金以外に。
他の種類のもの。
○　他の種類のもの。それもそうだし、自分の何を失うの。

自分の良さ。
○　そうそう、自分の良さを失うんだな。流行だけ追って、自分に合っているのか合ってないのかということを考えないということは、自分を何すること。
……。
○　自分を失うこと。自分自身を失うことだな。ということは、自分の心を失うこと。そう考えると、面白いでしょう。
○　はい、ヨハン・シュトラウス。（ヨ　板書）音楽家。音楽の中にも悪があります。それは、後で考えてください。ピカソ。（ピ　板書）絵の中にも悪があります。ピカソは、悪を暴いた絵を描いています。ゲルニカという絵。百科事典か何かで、調べてください。
○　次、アルプス。（ア　板書）アルプスというと、どこですか。
山。
○　うん、山。どこにあるんですか。
北アルプス。
○　ああ、それは、日本のアルプスね。もともとのアルプスは、どこにあるの。
スイス。
○　あっ、スイス。スイスだけじゃあなくて、ヨーロッパの六か国に渡る長い大きな山脈です。
ハイジ。
○　ハイジ。ハイジを思い出した。あるいはね。「サウンド　オブ　ミュージック」ってのの知らない。
知ってる。
○　あれもアルプスをね、題材にしています。そこでね。私は、アルプスっていうとね。あるケーキを思います。あのアルプスの中の一番高い山をモデルにしたケーキなの。
モンブラン。
○　そっ、モンブラン。モンブランという山、五千メートルぐらいある山。フランスに属している山。モンブランっていうケーキあるでしょう。
あるある。
○　あれ、大好きなの。
あっ、おいしいよ。
○　それを思い出すと「唾」が出てくる。それくらい好きなの。その中にも悪がある。
あっ、太る。
○　あるなあ。太るな、（笑い声）カロリーが高いから。だから、注意深く食べなくちゃあならない。いいね。
○　次は、この美しいもの、五つは何語。
カタカナ語。
○　片仮名語。カタカナ語のことを何語っていう、六年生だと。
外国語。
○　外国語でもいいけど、（笑いながら）六年生だと…。外…。
外来語。
○　外来語ね。外国から来た言葉。主に、これは、ヨーロッパから来た言葉ね、アメリカも含めて。ヨーロッパから来た言葉を一生懸命眺めていたら、これね、社会科で勉強します。詳しいことは、中学校、高校に行ってから考えてください。これは、西洋文明を見たと考える。まだ分からなくていい。西欧文明を見てみたら、みんなが惹かれて「いい。」と言っているけど、その中に悪があるだよ、と気付いたの。いいね。（文明　板書）

〈承接〉（本時につなぐ話し合い）

○　そうすると、これ（二連）も漢字二字、これ（四連）も漢字二字。ここ（三連）は、漢字二字だと、何を観察したの。
表情。
○　表情もいいね。他に。
気持ち。
○　気持ちだと、漢字二字に平仮名が入ってしまうね。他には。
心情。
○　心情もいいね。他には。
感情。
○　あっ、感情。いいね。一応、感情にしておきますか。（感情　板書）今、みんな、出たのいいよ。そうやって広げてくださいね。
○　ここ（三連）を感情としたら、一連は、何になる。感…、何。
心情。
感覚。
○　あっ、感覚だね。人間には、感覚いくつあるの。（感覚　板書）
○　五感っていうから五つだね。目の感覚のことを何覚っていうの。
視覚。
○　視覚だね。じゃあ、鼻は。
嗅覚。

○　嗅覚。口は。
味覚。
○　味覚。喉が渇くというのも味覚の内の一つね。これ（耳を指し）は。
聴覚。
○　聴覚。もう一つ。
手の感覚。
○　手に感覚、何だろう。手の感覚だけでなく、こういう（顔）ところにもある。
触覚。
○　あっ、触覚ね。いいね。触れる感じ、肌触り。本当は、第六感も使わないと詩は味わえない。第六感、大事。そうそう、ピーンと来るもの。（声を小さくして）特に、恋をしたときはね、ピーンと来る。
ふぁっあ。
○　じゃあ、五連は何ですか。五連、これ、何だろう。当たり前のこと。
行動。
○　あっ。
常識。
○　常識もいいな。観察したんだから、何を見たの。
自然。
○　自然を見たというのが、自然でしょう。
ああ。
あっ。
○　そこで笑う。（自然と板書しながら）先生が駄洒落を言ったの、自然が自然だなと。
あっはっは。
○　隣のクラスは、松原先生よりいい駄洒落だって、言ってくれた。
あっはっは。
○　何で、こんなこと（五つの二字熟語）を書いたかというと、こう並べてみると、何か気が付くでしょう。だんだんどうなっている。
広がっている。
○　あっ、広がっているな。感覚は、自分だな。文明ってのは、社会だな。感情ってのは、この中（胸を指して）だな。時間というのは、とらえどころのないものだ。自然とだんだん広がっている。そう考えるといい。並べ方を工夫しているんです。素晴らしいなあと思います。

〈手引き〉（視写の指示　視点を与えて）

○　それでは、一連では、どんなことに、はっと思ったかな。三連は何が大事だろうか。五連は、おっと気が付いたのは、何なのかを考えながら写してください。展覧会をするから頑張ってね。しっかりした字を書くんだよ。さあ、始めて。

十九分三十秒経過

三　よむ（手引きに従い黙読）
もう、間違えちゃった。
○　間違えたら記念品になる。

四　かく（プリントに視写　師は板書）

生　―
い　―
それはのどが　―
木もれ陽が
ふっと或る　思出　―
くしゃみすること
あなたと手をつなぐこと

生　―
い　―
泣ける　―
笑える　―
怒れる　―
自由　―

生　―
い　―
鳥ははばたく　―
海はとどろく　―
かたつむりははう　―
人は愛する　―
あなたの手のぬくみ
いのちということ

二十五分三十秒経過

（板書を確認後、机間指導をする。五　よむ　番になっている子には、読み方の説明をする）

○　大体、終わったようですね。今日は、後ろから前に回して、書いた紙を。他の人は、全部仕舞ってください。鉛筆もしまって、この紙（視写した紙）以外はね。黒板見て、二連も四連も、これだけで言えるように。
二連は、絶対言えるけど、四連が言えない。
○　（紙が集まったところで）はい、展覧会を楽しみしてください。
終わってない。
○　終わってない。後で返してもらって書いてください。そこまでいいです。

（暗唱の声が聞こえる。）
○　それでは、机の上をきれいにしてください。手を降ろして、腰を立てて、黒板を一生懸命見てください。

二十七分経過

五　よむ　（板書　連一名ずつ　三名　音読）
○　誰からかな。あなたからね。抜けているけど、大丈夫ね。
○　腰を立てて、集中して聞いてください。ゆっくり読んでください。
一連　（思い出すということ）手伝う。
○　よし、いいね。
三連
○　ああ、いいねえ。
五連
○　はい、いいねえ。

六　とく（詩の種を確認する話し合い）
〈語義〉（難語句の解消）**・区分**
○　さあ、難しい言葉ありますか、一連の中で。
木もれ陽。
○　あっ、木もれ陽。（○　板書）木もれ陽、説明できる人。
木からもれた…。
○　木からもれた。
日差し。
○　これ（陽）、日差しっていう意味。木からもれてくる日差しって。冬、あの（校庭）桜の木があるけど、葉っぱが全部落ちちゃうね。木もれ陽、感じられるかい。
感じられない。
○　それは、だめだね。葉っぱがある時だね。葉っぱの間から漏れてくる。季節は何時ですか。
夏。
○　夏。春から秋までね。場所は。
木の下。
○　木の下。もう少しイメージを広げると。
大きな木の下。
○　大きな木。森とか林とか、公園もいいね。
あっあ、公園ね。
○　いいね、そう考える。「ふっと」って何。意識しているの、いないの。
意識してない。
○　意識してない。これ、止めることできるの、できないの。
できない。
○　メロディーに出てくるな。今、出てくるな。それは無理ですね。よしっ。
○　「くしゃみすること」って書いてあるけど、普通は何か入れるでしょう。「くしゃみ」を「すること」と「を」抜かしてあるね。
省略してある。
○　省略すると、どういうことがあるかというと、七音になるの。数えてごらん。
く、し、や、…。
○　「しゃ」は一つ。くしゃみすること。
あっ、七。
○そうして、「手をつなぐこと」は何音になる。
七。
○　七音、七音にするために、「を」を抜いてある。分かった。
おっお。
○　さあ、次。「あなたと手をつなぐこと」の「あなた」、あなた（最前列左の男の子）にとってのあなたは誰。
自分。
○　自分もいい。あなたの中にいるもう一人の自分もいいね。あなた（その隣の女子）は。
お母さん。
○　お母さん。あなたは。
お兄ちゃん。
○　お兄ちゃん。あなたは。
妹。
○　妹、いいね。あなたは。
弟。
○　弟ね。あなたが（最前列の窓側の男の子）二十歳のあなただったとしたら、手をつなぐあなたは誰、イメージすると。
分からない。
○　分からない。あなた（二列目の女の子）は。
パパ。
○　二十歳になって、パパと手をつなぐ。いい子だなあ。お父さん、嬉しいな、パパ嬉しい。
○　隣のクラスで、二十歳のあなたがつなぐ「あなた」と言ったら、みんな笑った。そういうことは、何か、想像ができたということでしょう。
ふっふ。
分かった。
○　分かった。じゃあ、あなた。
あっ、いけ。
（当人は、困った顔）

○　言いにくい。よし。私が代わりに言う。「このつく人ね。」
　こ！。
○　こい…人。
　ああ。
○　恋人でもいいし、ガールフレンドでいいな。そうすると、あなたはのイメージ、いろいろあるね。私が、「あなた」と言ったら、誰をイメージすると思う。
　奥さん。
○　奥さん、怖い。
　うふふ。
○　じゃあ、誰。
　……。
○　孫だよ。
　ああ、ああ。
　うふっふ。
○　そうすると、この場面は、こんなイメージになるね。公園で孫と手をつないでいる私。あなた達は、あなた達。自分で考えるんだよ。
○　さあ、じゃあ、次。「ける、える、れる」に共通していることは。
　る。
○　「る」が共通しているな。これは、音を揃えるために「る」にした。その他に。
　喜怒哀楽。
○　うん。この「ける、える、れる」だけで共通していることは。
　ええ。
　できる。
　可能。
○　あっ、可能。そう、これ、可能なの。これ、泣くことが。
　できる。
○　笑うことができる。怒ることができる。そういうことを何ていう。
　可能。
○　そういうことをまとめて、自由っていうんじゃないの。
　ああっ。
○　自由ってのは、誰が決めるの。
　自分。
○　自分で決めて、誰がやるの。
　自分。
○　それを、自由っていうの。いいね。
○　ここ（5連）、難しいの、大丈夫。
　とどろく。
○　とどろく（○　板書）って何。
　音。
○　何の音だね、何の音。
　波。
○　波の音ね。波がどうする音。
　ジャバーン。
○　ジャバーンって、波がどうした音。
　風が吹く。
○　風が吹く。それもあるなあ。他には。
　船。
○　船が通ってもいいかもしてない。他に。
　……。
○　砂浜だったら、波が来て、ザブーンっていわないなあ。とどろくと遣わない。どういう所。
　岩。
○　岩とか。岩のでかいのは何。
　入り江。
　崖。
○　崖、崖。そうすると、これね。こう想像できる。孫と手をつないで公園を散歩していたら崖に出た。
　崖に出ちゃうの。
○　そう、崖に出た。崖に出たら、ここの風景が面白い。鳥が目についた。そして、海。崖の下の方で波の音がする。それから、かたつむりは、どこに。
　葉っぱの上。
○　そう、葉っぱの上だなあ。そうすると、映像が広いところから絞ってきて、すうっと回ってきて、遠くじゃあないな、すぐ近くの葉っぱの上にいるかたつむりが見えるな。そうするとイメージが広がるでしょう。それも、狙っているんだよ。いいね。
○　次。とどろくと書いたから、ここは、はばたくとしたい。ふつう、鳥は何という。
　飛ぶ。
○　飛ぶにしてもいいんだけど、はばたくにしたの。これ（はばたく）とこれ（とどろく）は、音の響き合いを出させるためにしたの。ローマ字で書くと、何と書くの。
　HABATAKU。
○　母音は何。
　AAAU。
○　AAAU って書いてあるから、アアアウでしょう。
○　ここ（とどろく）は、OOOU でしょう。オオオウでしょう。そうしたら、アーーウ

とオーーウという音の響き合いが自然に出るでしょう。これが一つ。まだあるんだよ。
○　これ（鳥ははばたく）は、何音になる、ここまで。
七。
○　ここ（ということ）幾つ。
五。
○　七・五。ここ（海はとど…）は。
七・五。
○　七・五。ここ（かたつむり…）は。
七・五。
○　七じゃあない。
八・五。
○　「かたつむりははう」まで八音になる。ちょっと崩してある。しかも、平仮名にしてある。ここ（人は…）は。
七・五。
○　七・五。そうしたら、こう並べるために「はばたく」を採ってあるの。言葉一つを選ぶのにも工夫しているんだよ。いいね。
○　はい、次。「愛する」ってどういうこと。
好き。
○　好き。その他に、愛っていっぱいあるんだよな。親が子供を愛するもあるね。子供が親を愛するもあるね。恋人を愛するってのもあるね。その他に、担任が君達を愛するってのもあるでしょう。逆もあるな。君達が担任を愛する。それは、尊敬とか、慕うとかいう愛だね。そういうように広く考えて。
○　はい、ぬくみって何。
温かい。
○　そう、温かいね。それだけ分かればいい。
○　（一連）問（括弧　板書）。答えを二つに分ける。（三連）問（括弧　板書）。答えを二つに分ける。（五連）問（括弧　板書）。答えを大きく二つに分けるとこうなるね。
（括弧　板書）ここ（最後の二行）は、後で考える。ここ（前の四行）、自然を観察しているところ。ここを二つに分けると、どこで分ける。
かたつむり。
○　ここまでだね。こう分ける。（括弧　板書）
○　ここ（一連）は。
くしゃみすること。
○　ここで分けるね。どう違う、こっち（後）とこっち（前）で。
二人と一人。
○　あっ、こっち（後）が二人、こっち（前）は一人。そうでいいね。コントロールが利くの利かないの。
利かない。
○　こっち（後）は。
利く。
○　利くね。
〈心〉（詩を種の発見　詩を味わう）
○　さあ、ここ（三連）からいきます。ここで、はっと気づいたのは、ここ（後）にあるね。自由が大事。何の自由が大事。
……。
○　ここ（前）は、何かの自由を表している。何の自由かな。
感情。
○　感情の自由。もっと簡単に言って。
心。
○　心の自由。ここの自由って（前を指し）具体的にこういうこと。いいね。
○　この自由、二連に自由は、あるか。
ない。
ある。
○　あるな。二連の自由は、拒むことも自分で決められるな。出会うことも自分で決められるな。（矢印　板書）
○　はい、四連は。
……。
○　四連は、ないなあ。ちょっと、ちょっと、過ぎるの、待って…。待ってくれない。
○　一連の自由。一連の自由は、何かないですか。
手をつなぐこと。
○　あっ、手をつなぐこと。いいね。（矢印）
○　くしゃみすること。
くしゃみは、自由にできる。くしゃみは、無理だね。
○　五連の自由、何。
いのち。
いのちは違う。
愛する。
○　あっ、愛するということ。これが自由。（愛するを丸で囲み　そこに矢印　板書）というつながりがある。ここまでいったね。
○　さあ、次。ここ、自然を観察して、「ああ、そうだ。」と気が付いたの、何。
……。
○　この中で（三行目から七行目まで）、気が

付いてこと。はっと気が付いたのは。
愛する。
○　そう、「人は愛するということ」に気が付いたの。（愛に○を板書）これね、鳥がはばたくのは。
……。
○　当たり前でしょう。海がとどろくのも。
……
○　当たり前。かたつむりがはうのも。
当たり前。
○　じゃあ、人は。
……。
○　愛するっていう気持ちが起こるのは。
当たり前。
○　当たり前のことだと気が付いたの。愛することが当たり前だと気が付いた途端、ある感覚が蘇ってきた。どんな感覚が蘇ってきたの。
手のぬくみ。
○　あっ、「あなたの手のぬくみ」に気が付いたのでしょう。（手のぬくみを丸で囲む　矢印　板書）
○　さあ、愛と手のぬくみを感じた。そうしたら、ある言葉が輝きだしたの、何。
いのち。
○　「いのち」という言葉が輝いたよってこと。（いのちを丸で囲み　矢印　板書）
○　この「いのち」は、何のことだ。別な言葉で言うとこの詩の「生きる」ということと同じだということでしょう。そう考えると面白いでしょう。
○　さらに、谷川さんは、工夫している。この手が、ここ（手のぬくみ）でうまく生きるように工夫してある。どこにあるの。
手をつなぐ。
○　ああ、ここ（手のぬくみ）とここ（手をつなぐ）つながるようになっている。（矢印　板書）
○　そうすると一連から五連まで、一つに…。
まとまる。
○　まとまっている。そうすると、この二行は、全体の気付きだな。そう考えると楽しい。暗唱の時間もとれるな。時間かな。
延長できます。（担任）

〈余韻〉

七　よむ（指音読）

○　じゃあ、暗唱までできるな。手を降ろして、腰を立ててください。お腹から声を出すんだよ。生きているということ、このくらいのスピードで、はい。
一連　生きているということ　（元気よく）
○　素晴らしい。ここで「を」を読まなかった。いいぞ、集中がいい。
三連　（元気よく）
○　いい声だ。
五連
○　素晴らしい。
〈全員　暗唱〉
○　じゃあ、ここ（三連）いくよ。こうやって（上の字の一部を残して消す）も言えるな。
三連　しっかり読む。
○　もう、ここ覚えちゃったね。
覚えた。
○　じゃあ、今度、ここね。（五連）漢字だけ残そう。この二行（最初の）は、もういいね。ここ、漢字がないから、上の一字だけ残して、ここは、漢字二つ残して、ここは、ないから上を残して。いくよ、はい。
五連　張りのある声で　素晴らしい。
○　じゃあ、ここ（一連）だよ。この二行、もういらないね。それは、いいね。（そだけ残し）漢字だけ残して、ここは、一番上だけ、ここも漢字だけ。
おお。
○　読むんだよ。よういい、はい。
一連　張りのある声。
〈一人で暗唱〉
○　それではね、暗唱の一号は誰だったっけ。あなたね。どの連でもいいよ。全部やってもいいけど、好きな連を一つでもいいよ。
頑張れ。
○　立ってください。三連ね。どうぞ。
（少し小さな声であったが、暗唱する。）
○　拍手（パチパチ）。最初だから安全なところをやった。大丈夫。やってくれるのがいい。
○　じゃあ、どれがいいですか。
二連。
○　二連、いいね。頑張って。（鞭で黒板に残っている字を指しながら読ませる）
かくれた悪（かくされた悪）
こばむということ（こばむこと）
○　拍手。よし、素晴らしい。じゃあ、次。
五連。

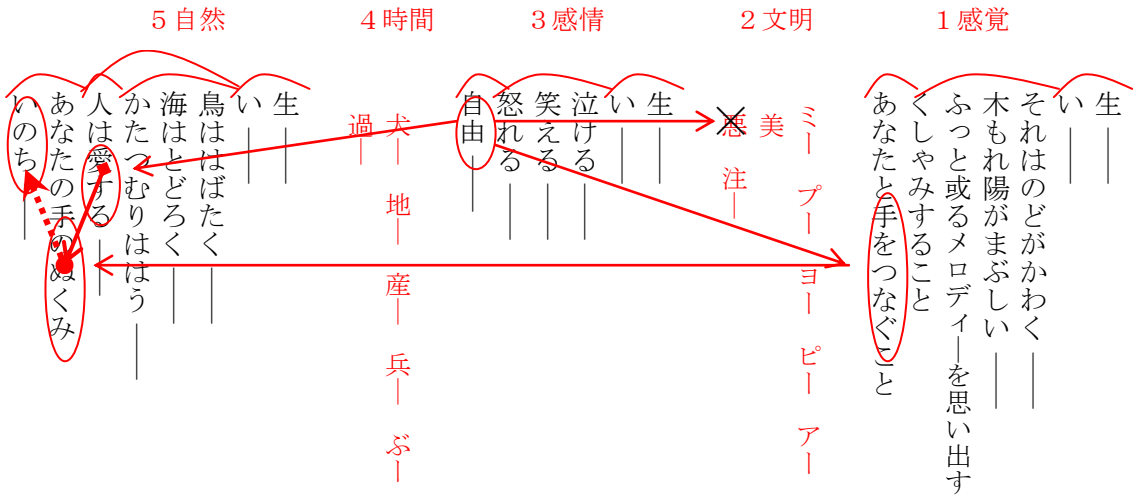
○　素晴らしい、このクラス。三連をやったら二連。そしたら今度は、五連。みんな違うところを選ぶというところが素晴らしい。
（しっかり暗唱する）
○　張りのある声で立派だ。（拍手）次。
一連。
○　あっ、素晴らしい。
（元気に暗唱する）
○　よし、オッケー。（拍手）
○　あなたは、何連だったらやるの。
三連。
○　あっ、三連。いいね。それは、本人が決めること。すごく大事なこと。自分が決めるということ、すごく大事なこと。
（しっかりと暗唱する）
○　ああ、よかったよ。次。
四連
○　素晴らしいクラスだ。
ほえるということ
まわっているといくこと
○　よし、素晴らしい。

四十八分経過

○　じゃあ、これで終わりにするけど、隣のクラス、時間がなかったから、一人、全部やった人がいる。
ええ。
○　やってみるか。ああ、素晴らしい。できたら拍手ね。よし、いいぞ。
まいまいならいける。

一連　鞭でリードする。
二連　はい、オッケー。

三連　おおいいぞ。
四連　オッケー、はい。
五連
○　おお、素晴らしい。ようし。（大きな拍手が起こる）あっ、女性がやったら、男性もやるって。オッケー。
やあ。（拍手）
ええい。（拍手）

一連　よし。
二連　オッケー。
三連　オッケー、素晴らしい。
四連
五連
○　素晴らしい。いやあ、素晴らしい。ありがとう。（握手に行く、二人の子に）ああ、時間になってしまったので、他に番になっていた人、ご免な。また、時間があったら、教室でやってみてください。終わりにしましょう。
では、全員立ってください。はい、先生と目を合わせる。あいりさん、どうぞ。（担任）
暗唱の仕方を教えて下ったり、一文一文を詳しく教えて下さったり、ありがとうございました。（代表）
ありがとうございました。（全員）
○　こちらこそ、ありがとうございました。（拍手）よい思い出になりました。
さようなら。
さようなら。

〈板書事項〉